

徳島県食料・農林水産業・農山漁村基本計画(案)
(概要版)

I 農林水産業の成長産業化-新成長ビジネスの展開-

目指す将来像

- ・ 生産販売体制の確立・6次産業化の推進・海外輸出の増大・「アグリサイエンスゾーンの構築」による「とくしまブランド」の「日本のトップブランド化・世界への飛躍」

とくしまブランドの展開

現状と課題

- ・ 競合産地の台頭やTPP等のグローバル化の進展
→「オール徳島」での挑戦する「ブランド戦略」の展開
畜産物・水産物の「ブランド力強化」

具体的施策

- 「とくしまブランド戦略推進機構(仮称)」創設等による「トップブランドへの挑戦」・「東京一極集中への挑戦」
- 畜産物の「プレミアムブランド化」
- ブランド力強化に向けた水産物のPRの実施

行動目標

- ◆vs東京!「とくしまブランドギャラリー(仮称)」
⑳設置
- ◆畜産プレミアムブランド(累計)
⑳3件
- ◆デパ地下等での「徳島のさかな」PR回数
⑳10回

6次産業化・輸出促進

現状と課題

- ・高付加価値商品や新たなサービス創出の必要性
→6次産業化の推進
- ・海外の食市場の拡大
→輸出促進による販路の拡大

具体的施策

- 「徳島大学・生物資源産業学部(仮称)」と連携した「産学官金」による商品開発
- 相手先国のニーズを捉えたマーケティング活動
- 輸出の継続化を図るための輸出型産地の形成
- 産地間連携の推進・強化
- 地理的表示登録に係る支援の実施
- 意欲ある若手生産者の海外展開支援

行動目標

- ◆農工商連携等による6次産業化商品開発事業数(累計)
⑳220件
- ◆農林水産物等輸出金額
⑳7.2億円

アグリサイエンスゾーンの構築

現状と課題

- ・農林水産分野の多様化・高度化する課題への対応
→農林水産総合技術支援センターの強みを生かした大学・企業等との連携による技術開発と現場への普及

具体的施策

- 「アグリサイエンスゾーン」の構築による技術開発や6次産業化人材育成
- 省力・低コスト化技術やブランド力強化に向けた新品種の開発

行動目標

- ◆「アグリサイエンスゾーン」の創設
⑳創設
- ◆「海の野菜」ブランド化の推進
⑳ブランド化

I 農林水産業の成長産業化-人材育成・競争力の強化-

目指す将来像

- ・キャリアアップシステムの整備等による次代を担う多様な「担い手の育成・確保」
- ・基盤整備や生産性の向上等による農林水産業の「競争力の強化」

次代を担う人材育成

現状と課題

- ・高齢化等による就業人口の減少
- 県産材増産に向けた担い手の確保
- 次代を担う担い手の育成・確保と定着
- 担い手のスキルアップ

具体的施策

- 「徳島大学・生物資源産業学部(仮称)」と連携したインターンシップの実施
- 新規就業から定着までの一貫した支援の実施
- 「アグリビジネススクール」「とくしま林業アカデミー」「漁業人材育成プログラム」によるスキルアップ

行動目標

- ◆新規就農者数(累計)
⑳1,200人
- ◆新規林業就業者数(累計)
⑳291人
- ◆新規漁業就業者数(累計)
⑳247人

農林水産業の競争力強化

現状と課題

- 【農業】
- ・グローバル化の進展への対応
 - 水田農業・畜産の体質強化
 - ・園芸農業のブランド力・競争力強化
 - 産地構造改革の推進
 - ・競争力強化に向けた生産基盤整備
 - 農地集積の推進
 - ・消費者ニーズを捉えた農産物の生産
 - 安全・安心の信頼性確保と消費の拡大
- 【林業】
- ・10年後の県産材生産量60万[㎡]
 - 川上から川下までの増産体制の整備
- 【水産業】
- ・海面漁業生産量の減少
 - 資源の維持・管理や生産性の高い漁場づくり
 - 新たな養殖業の創出

具体的施策

- 多収性品種導入等による飼料用米作付の推進
- 優良系統導入や「阿波尾鶏」への経営転換
- 園芸農業の生産流通構造改革の推進
- 農地中間管理機構を活用した農地集積の推進
- とくしま安[®]GAPや有機・特別栽培の推進
- 学校給食等への県産農産物の供給モデル実証
- 高性能林業機械の導入・林内路網や土場の整備
- 県産材新商品の開発・県産材輸出の促進
- 木育の推進
- 「とくしま水産創生ビジョン(仮称)」に基づく施策の推進

行動目標

- ◆飼料用米の作付面積
⑳1,250ha
- ◆「阿波尾鶏」出荷羽数
⑳250万羽
- ◆構造改革を実施した園芸産地における生産額
⑳50億円
- ◆「農地中間管理機構」等を活用した農地集積面積(累計)
⑳1,000ha(うち新規就農者100ha)
- ◆県産材の生産量
⑳36万[㎡]
- ◆「とくしま水産創生ビジョン(仮称)」
⑳推進(㉑策定)

Ⅱ 活力ある農山漁村の創出

目指す将来像

- ・農山漁村への移住と定住の促進・鳥獣被害減少等による「豊かな農山漁村の創出」
- ・多様な主体の協働による「美しい農山漁村・森林の継承」

魅力ある農山漁村づくり

現状と課題

・農山漁村の美しく持続可能な発展の創出
→地域資源を活用した「将来像」の作成
農山漁村への入り込み客増加による
「移住・定住」の促進

具体的施策

- 「日本型直接支払制度」を活用した集落ぐるみの取組への支援
- 住民が主体となる地域の「将来ビジョン」づくり支援
- 訴求力のある農林漁業体験メニュー開発
- 訪日外国人客の受入体制整備

行動目標

- ◆「未来ある農山村づくり」に向けたビジョンの作成地区数(累計)
⑳6地区
- ◆とくしま農林漁家民宿数(累計)
⑳36軒

鳥獣被害の防止

現状と課題

・野生鳥獣による農林水産業被害への対応
→関係機関等の連携による戦略的な取組の推進
・野生鳥獣の地域資源としての活用
→ジビエ料理の消費拡大
海外への情報発信によるインバウンドの取り込み

具体的施策

- 「鳥獣被害・管理対策戦略統括本部」を中心とした防護対策・担い手確保等の推進
- 「阿波地美栄」の供給力強化とPRの推進
ハラル対応によるインバウンドの促進

行動目標

- ◆野生鳥獣による農作物被害額
⑳23年度比25%削減
- ◆「阿波地美栄」取扱店舗数(累計)
⑳14店舗

多様な主体の協働・農山漁村の保全

現状と課題

・地域活力低下による農山漁村の維持・保全の困難化
→社会全体による農山漁村を支える
「協働活動」の推進

具体的施策

- 地域住民とNPO等の多様な主体による協働活動の促進
- 公有林化・県民総ぐるみでの森林づくりの推進
- 農山漁村への自然エネルギーの導入支援

行動目標

- ◆農山漁村(ふるさと)協働パートナーの協定数(累計)
⑳52協定
- ◆「公的管理森林」面積の拡大(累計)
⑳4,950ha

Ⅲ 災害に強い農林水産業の展開

目指す将来像

- ・大規模災害を未然に防ぐ「基盤整備の推進」と自然災害からの「早急な復旧を可能とする体制整備」
- ・家畜衛生管理体制と危機管理体制の強化

南海トラフ巨大地震への対応

現状と課題

・南海トラフ巨大地震の発生が危惧
→発生後の速やかな復旧・復興を可能とする事業の推進・体制整備が重要

具体的施策

- 「農業版BCP」実効性向上に向けた実地訓練の実施
- 「漁業版BCP」の策定
- 緊急輸送道路を補完する農林道の整備
- 地籍調査の推進

行動目標

- ◆「漁業版BCP」
⑳推進(㉑策定)
- ◆地籍調査事業の進捗率
⑳35%

自然災害への対応

現状と課題

・台風や集中豪雨などの自然災害が多発
→「減災」の視点を入れたハード・ソフト両面の「防災・減災対策」の推進

具体的施策

- 土砂災害からの人家保全の推進
- 山地災害発生防止に向けたパトロールの実施
- 計画的な施設の整備・更新に向けたプランの作成

行動目標

- ◆土砂災害の危険性のある人家の保全数
(累計)
⑳2,300戸
- ◆ハザードマップを作成した農業用ため池数
(累計)
⑳15箇所

家畜伝染病防疫対策の強化

現状と課題

・人・物のグローバル化に伴う家畜伝染病発生リスクの高まり
→発生予防・まん延防止に向けた危機管理体制の強化

具体的施策

- 鳥インフルエンザ診断の効率的な検査体制構築
- 家畜衛生保健所の機能強化

行動目標

- ◆獣医療の提供率
⑳100%
- ◆畜産農家の立入検査の実施率
⑳100%